

ランチョンセミナー 4

がん患者・がんサバイバーにおける トラマドールの位置づけ

2024年 6月 14日 金
12:20~13:10

第7会場

神戸国際展示場 2号館 2階 A
〒650-0046 兵庫県神戸市中央区港島中町6丁目11-1

座長

高雄 由美子 先生

兵庫医科大学 パインクリニック部 教授

演者

上野 博司 先生

京都府立医科大学附属病院 疼痛緩和医療部 准教授

詳しくは第29回日本緩和医療学会学術大会/第37回日本サイコオンコロジー学会総会
合同学術大会WEBサイトをご確認ください。<https://plaza.umin.ac.jp/jspm29jpos37/>



抄録を裏面に掲載しております。

がん患者・がんサバイバーにおける トラマドールの位置づけ

上野 博司 先生

京都府立医科大学附属病院 疼痛緩和医療部 准教授

がんサバイバーとは、がんが治癒した人だけを意味するのではなく、「がんと診断されてから人生の終末を迎えるまでのすべての段階にある人」と定義されている。近年、がん治療の著しい進歩によりがんの長期サバイバーが急増し、日本では700万人以上のがんサバイバーが存在すると推定される。がんサバイバーはさまざまな苦痛を抱えているが、その中でも慢性疼痛は大きな問題である。がんサバイバーの抱える痛みは、がんによる痛みだけでなく、がん治療による痛みやがんとは無関係な痛みが混在することが特徴である。がんによる痛みに対しては、必要十分量のオピオイド鎮痛薬を使用してQOLを改善することが基本となるが、それ以外の痛みに安易にオピオイド鎮痛薬を使用すると、依存・乱用などを引き起こす危険性があるため注意が必要である。また、がんによる痛みも長期に持続すると、オピオイド鎮痛薬の長期使用による副作用が問題となる。トラマドールは、この両者の痛みに対して有効性が確認されており、本邦では麻薬指定ではないために処方しやすい薬剤である。しかし、オピオイド鎮痛薬であるため、安易な長期処方には注意が必要である。また、セロトニン再取り込み阻害作用を有するため、抗うつ薬などとの併用により生じるセロトニン症候群にも注意が必要である。本講演では、がんサバイバーに焦点を当てて、最近の知見を含めて、トラマドールの適正使用について考えてみたい。